

- ◎1月例会（510回）は、オミクロン株のリスクを避けて、残念ながら中止しました。
◎2月の例会については、コロナの状況を見極めて実施の可否を決定します。
（コース変更も含めて、2月中旬の役員会で判断します）

唐突ですが、本編なしの蛇足です。

崇道天皇・八島陵（すどうてんのう・やしまのみささぎ）と 八島陵前石室古墳

今回計画していたコース「白毫寺～北山辺の道」は、昨年3月にコロナ禍のため中止した企画のリベンジでした。燦歩会としては、40年前の第1回の由緒あるコースで、是非実現したかったのですが、再挑戦する機会もオミクロンの為に奪われてしまいました。残念というほかありません。

40年前のコースは、奈良市の「白毫寺から山辺の道」という事で、最終的にどこまで歩いたかは、わかっていません。そこで、今回は崇道天皇陵（すどうてんのうりょう）から山村御殿円照寺（やまむらごてん えんしょうじ）まで歩く事にしていました。

崇道天皇といえば、おとし10月、奈良の葛城山麓を歩いた時に崇道神社にお参りしています。30mを超えてそびえる神木のムクロジとムクの木が何とも物凄く、祠は小さいのですが、ただ事ならぬ佇まいに感じられたことを記憶しています。

今回は、その本社ともいべき崇道天皇陵も訪ねる予定でした。燦歩は先送りになってしまいましたが、“蛇足だけでも”と、お届けします。



手許の岩波日本史辞典には、

「崇道天皇」の見出しはありません。

この称号は、死後時を経て贈られたものです。

第49代光仁天皇の皇子で、生前は早良親王（さわらしんのう）と呼ばれ、桓武天皇の弟として、皇太子の地位にありました。785年、長岡京の造営を推進していた藤原種継の暗殺事件が起き、早良親王はこれに関与した容疑で逮捕されます。しかし自ら飲食を絶ち、淡路へ移送される途中36歳で亡くなります。（食を絶たれたとも）

遺骸は淡路に葬られますが、その後、宮中や都では病気や災害が相次ぎ、それが早良親王の祟りとして恐れられるようになります。そこで桓武天皇は、慰霊の行事を行い、天皇の称号を贈り、また大和の八島のこの御陵に葬ったというのです。

祟りを恐れる気持ちと祈る事で得られる心の安らぎ、それは後の「菅原道真…天神さん」にも通ずるものだったのでしょう。



早良親王・崇道天皇の生涯もミステリアスですが、それよりもっと不思議なのが、この御陵の前の情景です。道路はごく普通に人や車の往来する道ですが、その真中に驚くべき一角があるのです。コンクリートに囲まれた中に大きな石が積み重なっています。



実はこれは古墳の跡です。南北がおよそ7メートル幅3メートル、石は石室の天井石と考えられています。奈良市史考古編によれば、「古墳時代後期の小型の横穴式石室古墳で、上を覆っていた土は失われて、元の形は全く分からなかった」という事です。

「八島陵前石室古墳」と名付けられています。

石の上に花が手向けられていました。地元ではこの巨石群は「八つ石」とよばれていて、こんな言い伝えがあるそうです。早良親王が淡路の国で最期の時、石を九つ放り投げ、「この石の落ちた所に葬って欲しい」と告げて亡くなります。その石の内八つが、遠くこの地で見つかった為、御陵がここに営まれたというのです。八島という地名もそれに由来すると伝えています。謎の事件の渦中で非業の死を遂げた皇子、その陵の前に在る謎めいた巨石（実際はこちらの方が先なのですが）、その二つがない交ぜになって、言い伝えが生まれたのでしょうか。恨みを残して亡くなった親王の魂を慰めることによって、怨霊や疾病災害からの庇護を願った人々の気持ちは、古墳の跡を道路の真ん中に、大切に残している事にも通じているのでしょうか。

ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。メンバーは現在39名です。

入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。今後の予定は、まさに未定ですが、コロナの状況に合わせて、下見済みの所を適宜選んで歩きます。

- ◎燦歩会 500 回記念行事 浪花文學散歩（大阪）
- ◎おこしやす 京の五花街を巡る 続編（京都）
- ◎灘五郷酒蔵めぐり（兵庫）
- ◎大阪空港 迫力の滑走路を一周（大阪・兵庫）
- ◎京街道を高麗橋から守口へ（大阪）
- ◎天理軽便鉄道跡を歩く（奈良）

参加ご希望の方は、会務担当 山村恵一にご連絡下さい。

（電話：090-1484-4403、メール：y-yamamura@ares.eonet.ne.jp）
コロナに注意しながら、一緒に気軽に楽しく歩きましょう。（写真・文 生島 幸弥）